

平成25年度 第2回新温泉町行財政改革推進委員会会議録（要旨）

[開催日時] 平成25年11月29日（金）午後1時30分～3時30分  
[開催場所] 浜坂多目的集会施設 1階 会議室  
[出席者] 下雅意委員長、西村副委員長  
岡委員、倉内委員、中澤委員、松岡委員、松田委員  
村尾委員、森田委員  
行政 田辺副町長  
事務局 西村総務課長、西村副課長、中島係長、谷口主査  
[傍聴者] ー

=====

[会議次第]

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

（1）平成25年度（平成24年度実績）行政評価結果について

（2）第2次行財政改革実施計画の平成25年度上半期進捗状況について

4 そ の 他

5 閉 会

## [内 容]

### 1 開 会

### 2 あいさつ

委員長：今日の午前中にJアラートの試験放送を行っていたが、それよりも、今朝発生した交通事故に伴う通行止めの交通情報を放送してもらった方が有り難いと思った。

最近、世の中の景気は上向いているようであるが、私達は、私達の新温泉町としての課題についてしっかりと見つめ、これからの行革に弛みなく歩んでいくべきだと思っている。そういう目で見れば、今後、様々な事業が峻別される必要が出てくると感じている。

本日は、限られた時間ではあるが、皆様に忌憚のない意見交換を行っていただきたいと思うので、よろしくお願いします。

副町長：本町の行財政改革の取組として、約2年がかりで取り組んだ組織の機構改革については、本年4月から本格的に実施しており、まだ半年しか経過はしていないが、今後、各課の現状を取りまとめて集約したいと考えている。

行革にはこれで最後というものは無いので、これからも推進を図っていく必要があると思うが、現在進めている職員の定数削減や事務事業の合理化により、新たな課題も生じると思っている。その中で、いかに調整を図りながら、次の改革を行っていくべきかを判断し、時代に合った体制づくりをしたいと考えている。

本日は、議事にある行政評価結果、行革実施計画の上半期進捗状況について、報告させていただくが、行政としては、「最少の経費で最大の効果を生む行政運営」が必要不可欠であり、そのために、皆さんの意見をいただきたいと思っているので、よろしくお願いします。

### 3 議 事

#### (1) 平成25年度（平成24年度実績）行政評価結果について

（事務局説明）

#### ・主な意見等

委員：評価については、町の自己評価ということだが、この度の町議会議員選挙の投票率が10%近く下がっている現状において、選挙啓発事業が、評価「A」となっている。「B」でも良いと思うが。

委員：今回の評価結果は、24年度の実績ではないか。

委員：そうであれば、来年度の実績に反映するということで、了解しました。

委員長：評価した時点ではそうであるが、今日時点の結果は見えているので、そう意味では、自己評価がどうかと思うところはある。

事務局：24年度の実績としては、明るい選挙推進協議会による啓発、ポスター募集などを実施しており、12月の衆議院選挙においては、全国レベルよりも少し高い投票率となっている。

委員長：全国的に期日前投票の投票率が上がっているが、新温泉町のように交通事情が悪いところは、もっとそういう制度を積極的にPRした方が良いのではないか。

事務局：期日前投票については、今年から入場券の裏面に宣誓書を印刷するなど、積極的にPRしているつもりではあったが、十分に周知出来ていなかったようである。

委員長：現在、上山高原に通じる道路が崩壊して通行止めとなっており、私も知人から、通行状況について問い合わせを受けた。そういう場合に、町の情報発信として、「現在は上山高原への道は通れないが、扇ノ山へは通れますよ。」といった多面的な情報発信をして欲しい。ただ単に、「通行止めです。」ではそっけない。情報発信をするうえで、各課の目線だけでなく全体の目線を入れて欲しい。交流人を増やすためには、情報を見た人に代替案を出してあげることが必要だと思う。

委員：民間委託の事務的な手順は、どのようなものか。どういう手順で決定するのか。また、委託金額は町の積算した金額となるのか。

事務局：委託までの流れは、まず、町長に委託の可否について相談のうえ決定し、その後、事業者との協議を踏まえて契約を締結する。金額については、町が標準的な基準で積算し、そこに疑義があれば協議を行い調整する。

委員：一次評価は担当課が行うようであるが、二次評価は誰が行うのか。外部の評価委員会か。

事務局：一次評価は担当課が行い、二次評価は庁内の評価委員会が行っている。

委員：施策評価の一次評価と二次評価で、今後の方向性に対する評価の違いがあったので、もし、二次評価が外部評価であったなら、住民ニーズと供給する側の行政の間にギャップがあるのかと思った。

委員：評価が低い施策、事務事業については、特に計画目標に対する町の取組状況や成果を適切に精査しているか。

事務局：評価にあたっては、成果指標等を設定した評価を行っており、特に成果が低いものについては、資料に記載の改革・改善案のとおり、今後の取組について検討を行っている。

委員：商工観光課、生涯教育課の所管するものに、評価の低いものが目立つ。成果としてやむを得ない部分もあるが、今後は、「B」評価になるような努力をお願いしたい。

事務局：観光施策については、町としても重点的に取り組んではいるが、思いどおりに成果が出ていないのが現状である。

委員長：道の駅を整備することが既成事実となっているようだが、道の駅も一つのハコモノである。そういう面では、もっと真剣に整備箇所、形態、運営コスト等について検討することが必要である。「他の町にあって新温泉町にないから造る。」というレベルでは困る。市場調査をしないハコモノは、ゴーストタウンになってしまう。

事務局：道の駅については、構想が出来てから10年近くになる。22年度には住民代表を含めた検討委員会の中で、交通量調査、収支計算、農産物生産団体に対する出荷意向調査等を実施しており、今後もそれらをもとに整備の検討を行っていく予定である。

委員長：但馬にも幾つかの道の駅があるが、今は何処も「お荷物」の状態である。施設を整備する前に運営シミュレーションを行わないと、大変な「お荷物」になるような気がする。

新温泉町に来る大型バスは、ほとんどが目的を持っている。業者が京阪神で、ものすごく営業活動を行ったからである。「道の駅があるから寄ろう。」というバスはほとんどない。

委員：昨年新聞で、兵庫県は道の駅整備に補助を出さないという記事を見かけたが、補助する方向となったのか。

副町長：現在は、兵庫県と一体になって事業を進めている状況である。一つのハコモノを造る場合には、様々な体制づくりが必要であり、既に、住民の方に参画していただきながら、整備に向けた協議を始めている。

委員：道の駅での農産物の販売にあたっては、運営主体の人だけが持ち込める体制ではなく、その他の人でも簡単に持ち込めるような体制を計画してもらいたい。

委員長：将来的に負担となるような大きな施設でなく、トイレと農産物を並べるだけならば、極端に言えば、柔軟に対応できるテントぐらいで良いという意見も多く聞いている。

委員：都会では、倒産した業者の店舗を購入して、新たな業者が商売を始めるケースがたくさんあるが、これは、投資コストが安いから、いつでも撤退できるという引き際も考えているからである。町の施設整備においても、引く時のことを考えておく必要がある。

委員長：地域活性化のために道の駅を整備することは良いと思うが、将来的な負担も考慮して、地域に合ったレベルの施設にしなければならない。

副委員長：施設整備と同じく、整備後の運営についても、経営感覚に優れた人がいなければ、思うようにお客は増えないのではないかと。

委員：倉吉市や香美町などは、ふるさと納税に力を入れているが、新温泉町はそれほどでもない。特産品などの特典を充実させても、費用対効果が低いかからか。

事務局：費用対効果が低いこともある。それと、本来のふるさと納税の趣旨に反する部分があるため、本町としては、あまり好ましくないと考えている。

委員：宣伝部分の観点で見れば、新温泉町のPRにつながると感じる。

委員：浜坂認定こども園の所在地は、津波や浸水の問題があるため、早急に園舎の移設を検討して欲しい。

委員長：こども園舎の危険度は、町の課題として認知されているか。

事務局：町の課題として、これまでから認識している。また、浜坂認定こども園舎については、併せて老朽化の問題がある。

副町長：浜坂認定こども園舎には、園児の安全面での課題、それと、住民の避難場所としての適性の課題があり、その対策については検討している。

委員：災害時の避難施設については、新設は難しいと思うので、既存施設の有効活用が重要だと思う。

委員：浜坂中学校の裏にグラウンドゴルフ場があるが、利用している人を見ることがない。また、使用料は有料ということであるが、利用状況が悪いなら、使用料を無料にしても良いと思う。

委員：組織見直しに伴う町民課窓口の配置変更は、非常に良いと感じている。

委員：人事評価は、非常に重要なことだと思うが、難しい部分も多いと思う。

町の業務には、数値だけでは評価が出来ないものもあるし、部署ごとに業務の内容も異なっている。また、評価する側の研修なども必要になると思う。

その中で、町としてどのような人事評価を実施しているのか。

事務局：本町においては、限られた予算と職員の中で、今後、行政運営に必要となる職員のレベルアップ、人材育成という観点で人事評価を実施している。目標としては、昇級・昇格への反映ということもあるが、現状では、そこまでの制度としては確立しておらず、試行の段階では、評価されることで本人の「気づき」に繋がればと考えている。

また、人事評価の面談において、組織のコミュニケーションを高め、組織と個人の能力を伸ばしていくことが、現在の重要な部分だと思っている。

委員：やる気のある職員が働きやすい環境を整備することは必要だと思う。や

る気のある職員がやる気を無くすような組織では駄目だと思う。

副委員長：人材育成として取り組んでいることは、何かあるか。

事務局：人材育成基本方針にもあるが、研修を受けることも人材育成であり、職場内や外部での研修を受け、そこで学んだことを業務に活かしている。

副委員長：人事評価によって、やる気のある職員とない職員に差をつけて欲しいという願いはある。

委員長：自己啓発として、業務に役立つ資格を取得した場合に、町がサポートをする制度があっても良いと思う。

委員：専門的な資格を取得した場合に、昇級するような制度はあるか。

事務局：そのような制度は無い。

委員：昇級するような制度を設けると、その方向にばかり目が向き、通常業務が疎かになる気がする。

委員：専門性を持った職員は必要だと思うが、資格を求めると、それが目標になってしまい、仕事が目標でなくなる可能性がある。

## （２）第２次行財政改革実施計画の平成２５年度上半期進捗状況について （事務局説明）

### ・主な意見等

委員：美西浄化センターは既に閉鎖していると思うが、いつ頃の取壊し予定か。

副町長：浄化センターは、４月の中頃まで稼働していたが、現在は、汚泥を取り除き、清掃を行った状態である。建物の取壊しについては、福富地区と協議をしながら調整を進めている。

また、施設の中に若干の焼却灰があるため、環境調査を実施予定であり、その調査結果を見て、跡地活用について検討したいと思っている。

副委員長：ごみの分別において、プラ製ごみを分別しているが、その回収されたプラ製ごみは、町が費用負担して業者に引き取らせているのか。

事務局：町が費用を負担して引き取ってもらっている。

副委員長：新温泉町以外の市町も、同程度の分別を行っているのか。

事務局：他市町の分別区分は本町ほどではない。新温泉町のごみ分別は、先進的な取組である。

副委員長：プラ製ごみを分別して回収することにより、業者への引き渡しの際に、ある程度の収入が得られていると思っていたが、反対に費用を掛けているということか。

委員：プラ製ごみが分別区分に追加される時の説明では、北但ごみ処理施設が稼働した時に、各市町の負担金のごみの持ち込み量に応じて決まるので、分別を増やし、経費の削減を図るということだったと思う。町が費用を掛ける

のではなく、業者が費用を負担して引き取りしているものと思っていた。

事務局：分別の種類としては、国が推奨する区分であり、再資源化のごみになることは間違いない。ただ、収入面での何かプラスがあるかと言われれば、現状ではあまり無い。

プラ製ごみが増える分だけ焼却ごみが減少するので、その部分ではメリットはある。

委員：焼却ごみとして掛ける費用よりも、プラ製ごみとして業者に引き取ってもらう方が安いのか。

事務局：現時点では、プラ製ごみに係る処理費用は赤字である。

委員：手間が増えただけで、何となく釈然としない。

副町長：資源ごみの活用については、多少費用が掛かっても、分別処理をすることで、ごみの再資源化が図れるが、焼却ごみとして処理すれば、何も生まないごみである。地球環境を考えれば大切な取組である。

委員：先ほど委員が言われたように、分別区分を追加する時の町の説明が、経費削減のためということだったので、これまで一生懸命、分別に取り組んできたが、今の説明を聞いて残念に思う。

委員長：北但ごみ処理施設が稼働した時に、今の新温泉町の収集体制を維持しようとするならば、ごみ運搬車の増車が必要にならないか。

事務局：増車は必要になると思うが、それは委託先の課題である。しかし、運搬経費が増えることで、委託料が増額になることは想定しており、その増額金額は、現在の焼却施設の維持管理経費よりも低い金額になると試算している。

委員長：税金の滞納状況は、改善されているか。

事務局：徴収率は上がってきている。

委員長：役場に浜坂病院担当の職員が配置されていると思うが、その役割はどのようなものか。

事務局：病院担当の役割は、町長と病院、健康福祉課の調整ということが主な役割である。配置当初は、各病院の外回りをしたこともあったが、医師の招聘については、職員レベルでの話し合いでは難しいものがある。

委員：千葉県の市川市だったと思うが、医師のインターン制度が改正になった時に赤字を出して、市立病院を閉鎖していたと思う。新温泉町も町医者が増え、鳥取や豊岡への道路が整備されて大きな病院が近くなったのだから、無理な医師確保にこだわらず、浜坂病院を診療所的な位置づけにするなどの発想の転換をした方が良いと思う。

住民から見れば、救急車に乗って浜坂病院で検査して、結局、他の病院に

転送されるのであれば、その検査時間が無駄である。今後、町財政が厳しくなる中で、浜坂病院が赤字で財政を引っ張るようなことは良くないと感じるし、医師が次々に変わるようでは患者も定着しない。

委員長：ある医療関連図書に、山陰地方の岩美病院、浜坂病院、香住病院は、診療所にせざるを得ない地区と書いてあるのを見た。

委員：老人ホームということではないが、末期の方の終末医療に対応するような考えに発想を変えた方が良いのではないか。

委員長：町民の需要がどこにあるかを見るべきで、昔の医師数にこだわるようなことではない。これから浜坂病院が、どういう性格の病院として生きていくかを考えなければならない。

委員：浜坂病院を残すべきという一部の意見に従うのでなく、どこかで誰かが、現状と将来を見据えた中で、浜坂病院のあり方を考えることが、行革において、一番大きな課題だと思う。

委員：特に若い人は、浜坂病院に必要性を感じていない人が多いのではないか。

委員：でも、浜坂病院はあった方が良くと思う。

委員：「病院」、「医師の確保」ということにこだわらないことが、一番正しい道だと思う。

事務局：するかしないかは別として、そうした抜本的な見直しを視野に入れる必要はあると感じている。

#### 4 その他

(特になし)

#### 5 閉会

副委員長：私が人とふれあう中で大切に考えていることは、相手の気持ちや立場に立って行動することである。今日の議論で人材育成の話もあったが、町の職員においては、何が住民に喜ばれ、何が住民のためになるのかを考えて、特に、弱い立場にある方に光を当てて欲しいと思う。

本日はご苦労様でした。